

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成29年 1月25日

協議会名: 砂川市地域公共交通会議

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
ふじ観光株式会社	予約型乗合タクシーの運行 ・北エリア①、北エリア②、南エリア		A 計画どおり事業は適切に実施された。	B 【運行稼働率】 目標30%に対して実績31.3% 【1便あたりの利用者数】 目標1.76人に対して実績1.65人 【年間利用者数】 目標6,246人に対して実績6,071人	1便あたりの利用者数と年間利用者数が目標値を達成できなかったことを踏まえ、次年度以降も市広報紙や市ホームページなどでの広報・周知活動を行い、事業の浸透を図る。加えて、利用者からの要望が多かった予約受付時間の拡大、他の高齢福祉施策との共同実施を行うことで利便性を向上させ、利用者数の増加を図る。
株式会社三星					
砂川北星ハイヤー株式会社					

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成29年 1月25日

協議会名:	砂川市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>砂川市は札幌市と旭川市のほぼ中間に位置し、行政面積は78.68平方km、人口は約1万7千人で、中央部を南北にJR、国道12号が縦断しており、近隣市町へは国道と道道で連絡されている。本市はかつて、石炭を原料とした化学肥料や木材加工産業、近隣市町の炭鉱等によって、中空知地域の中核都市として発展したが、エネルギー革命などによる化学肥料工場等の縮小・合理化が進み、人口の減少を余儀なくされ、過疎地域に指定されており、近年は高齢化による交通手段の確保が顕著な問題となってきた。</p> <p>市民の生活移動を支える公共交通としては、JR北海道が運行する函館本線と北海道中央バスによる路線バス、都市間高速バスが運行しているが、路線バスは利用者の減少から運行収支が経常的な赤字となっており、市として補填の財政負担が発生している。また、路線バスは国道と道道のみを運行していることから、交通空白地域が多く存在している。</p> <p>このため、平成27年10月1日から「地域公共交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統)」に基づく国の支援を受けながら、交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通の確保を目的として、幹線系統である路線バス及び都市間高速バス、JR函館本線とを接続することにより利便性の向上を図り、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取り組みを継続している。</p>

砂川市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

砂川市は過疎地域に指定されており、近年は高齢化による交通手段の確保が顕著な問題となってきている。

市民の生活移動を支える路線バスは国道と道道のみを運行していることから、交通空白地域が多く存在している。

交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通の確保を目的として、路線バス及び都市間高速バス、JR函館本線とを接続することにより、利便性の向上を図り、地域公共交通の確保・維持・改善に向けた取り組みを継続している。

生活交通確保維持改善計画の目標

運行を継続し、交通空白地域の改善、交通弱者の生活交通を確保していく。

- ・運行稼働率 30%
- ・1便あたりの利用者数 1,76人
- ・年間利用者数 6,246人

平成28年度事業概要

予約型乗合タクシーの運行。

- ・北エリア①
- ・北エリア②
- ・南エリア

※市内全域を3エリアに区分し、タクシー事業者3者(ふじ観光、三星、砂川北星ハイヤー)が1か月交替で担当

地域公共交通の現況

- ・JR函館本線(砂川駅、豊沼駅)
- ・北海道中央バス(株)(都市間バス1路線、近郊路線7路線)
- ・タクシー事業者3社(ふじ観光、三星、砂川北星ハイヤー)

協議会開催状況

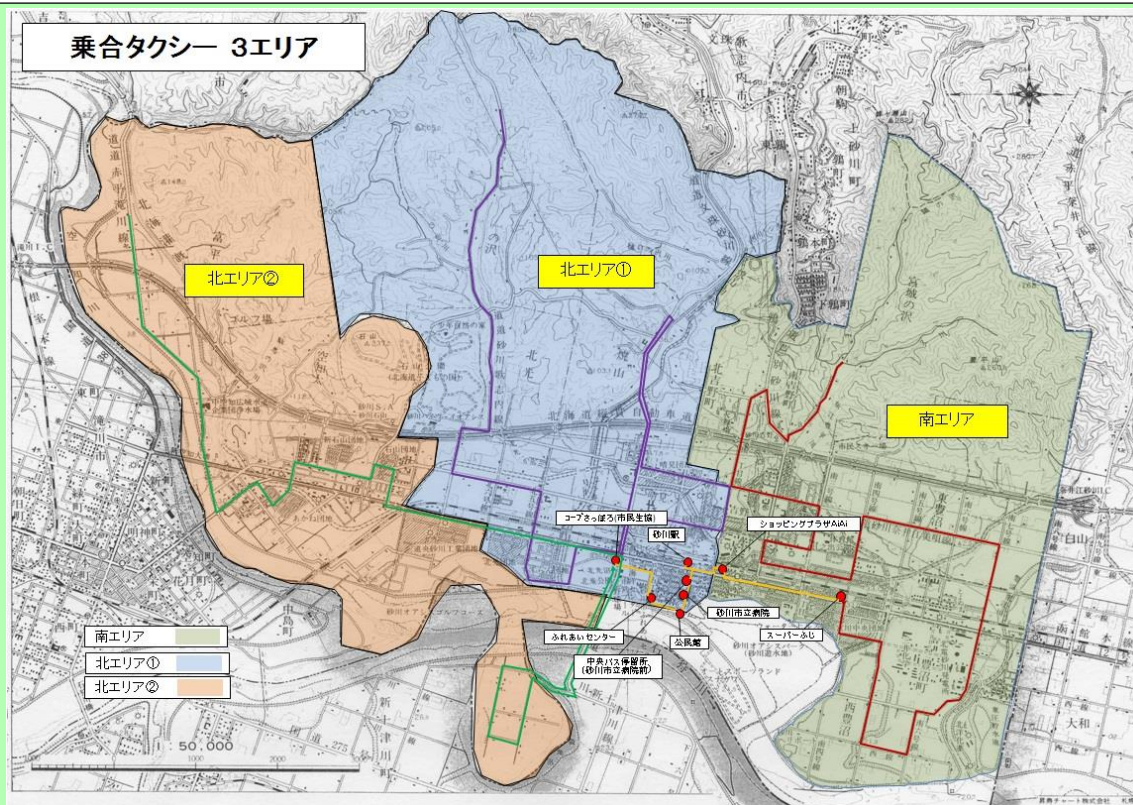
- 平成28年5月18日 第1回協議会を開催
- ・砂川市予約型乗合タクシー運行計画(案)等について
- 平成28年6月21日 第2回協議会を開催
- ・平成29年度砂川市生活交通確保維持改善計画(案)等について
- 平成29年1月17日 第3回協議会を開催(書面)
- ・平成28年度地域公共交通維持改善事業に関する事業評価について

平成28年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

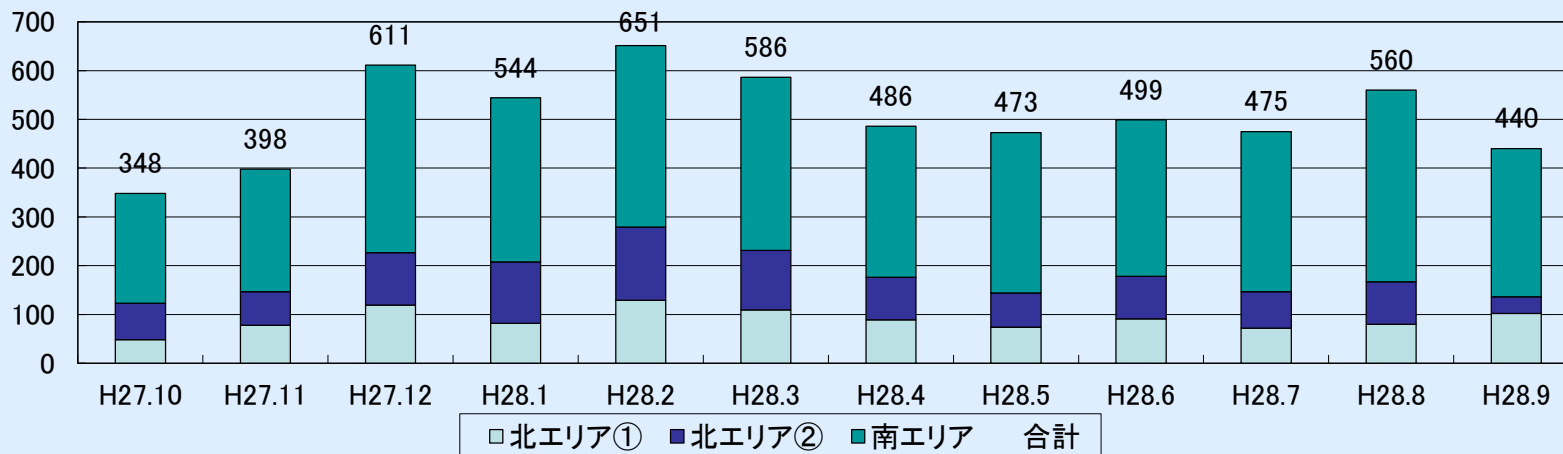
- ・地域住民説明会、市広報誌、メディア等を活用したPR活動。
- ・始発時刻、まちなか乗降地(共通発着地)、予約方法を掲載したチラシの作成、配布。
- ・まちなか乗降地(共通発着地)に、時刻表、停留所の看板等を設置。
- ・利用登録者を対象に、利用実態及び改善要望等の把握のためアンケート調査を実施。

2) 運行系統



3) 利用実績

平成28年度利用者数(単位:人)



平成28年度実績

利用者数

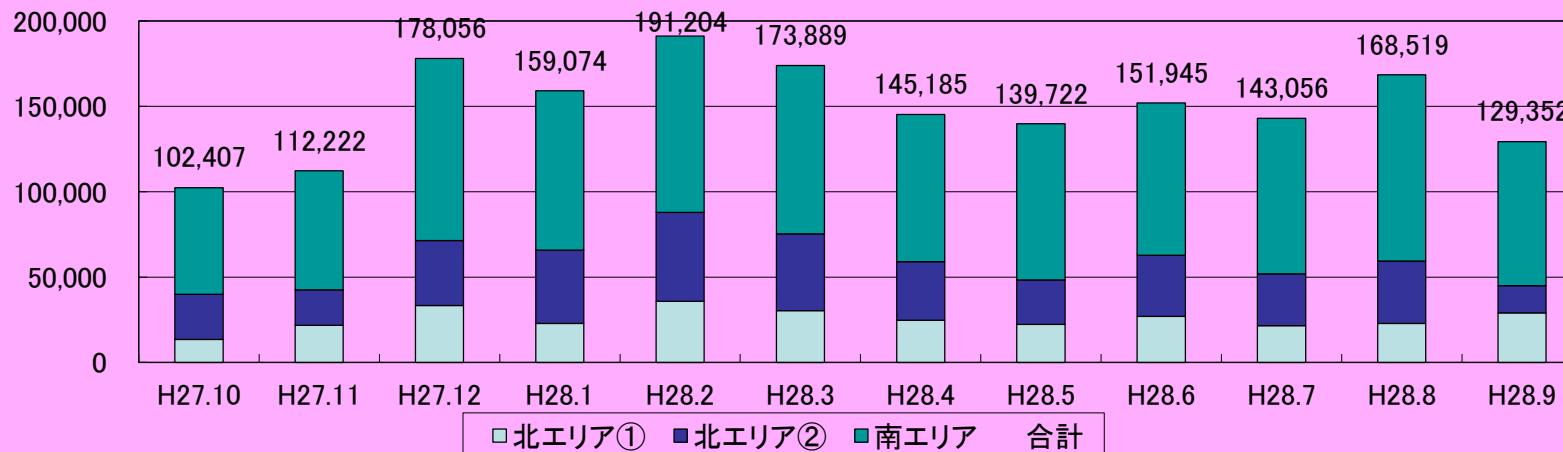
6,071人

1便平均

1.65人

4) 収入実績

平成28年度運賃収入(単位:円)



平成28年度実績

1,794,631円

5) 事業実施の適切性

計画どおり事業は適切に実施された。

7) 事業の今後の改善点

1便あたりの利用者数と年間利用者数が目標値を達成できなかったことを踏まえ、次年度以降も市広報誌や市ホームページなどでの広報・周知活動を行い、事業の浸透を図る。
加えて、利用者からの要望が多かった予約受付時間の拡大、他の高齢福祉施策との共同実施を行うことで利便性を向上させ、利用者数の増加を図る。

6) 目標・効果達成状況

【運行稼働率】

目標30%に対して実績31.3%

【1便あたりの利用者数】

目標1.76人に対して実績1.65人

【年間利用者数】

目標6,246人に対して実績6,071人

8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・利用者数、運送収入とも南エリアが北エリアを大きく上回っているのは、人口密度との相関関係があると思われることから、人口分布を詳細に分析し、乗り合い率が向上することを期待する。
- ・月ごとに3社が運行エリアを交替する体制をとっているが、利用者が混乱しないよう予約方法を周知徹底し、市全体として利用促進を図ることにより、持続可能な事業となることを期待する。